

ヤンデレ妹が

俺を女にしたッ!



# Chapter 1 : 時代。

ペルンシユタイン首相は  
次々と性犯罪に對して  
男性のみを処罰する法案  
を議會に提出し、  
成立させた。

ただでさえ経済的に  
男にとって生きにくい  
社会となつていたのに  
政治的にも  
追い打ちをかけられる  
格好になつたのだ。

男たちが、政権を握って  
いる。

女性第一主義者たちの  
せいであるということ  
はつきりと認識し、  
男たちだけの小さな  
非合法政党が誕生した。

これが、

シュトラール党である。

ここに至り、この国は

事実上

「男陣営」と「女陣営」

の二つに分裂し、

内戦を繰り広げる

ようになった。

シユトラール政軍側  
（男性側）についた兄の  
【英雄】  
ヘルトメルダース准将  
若干29歳。

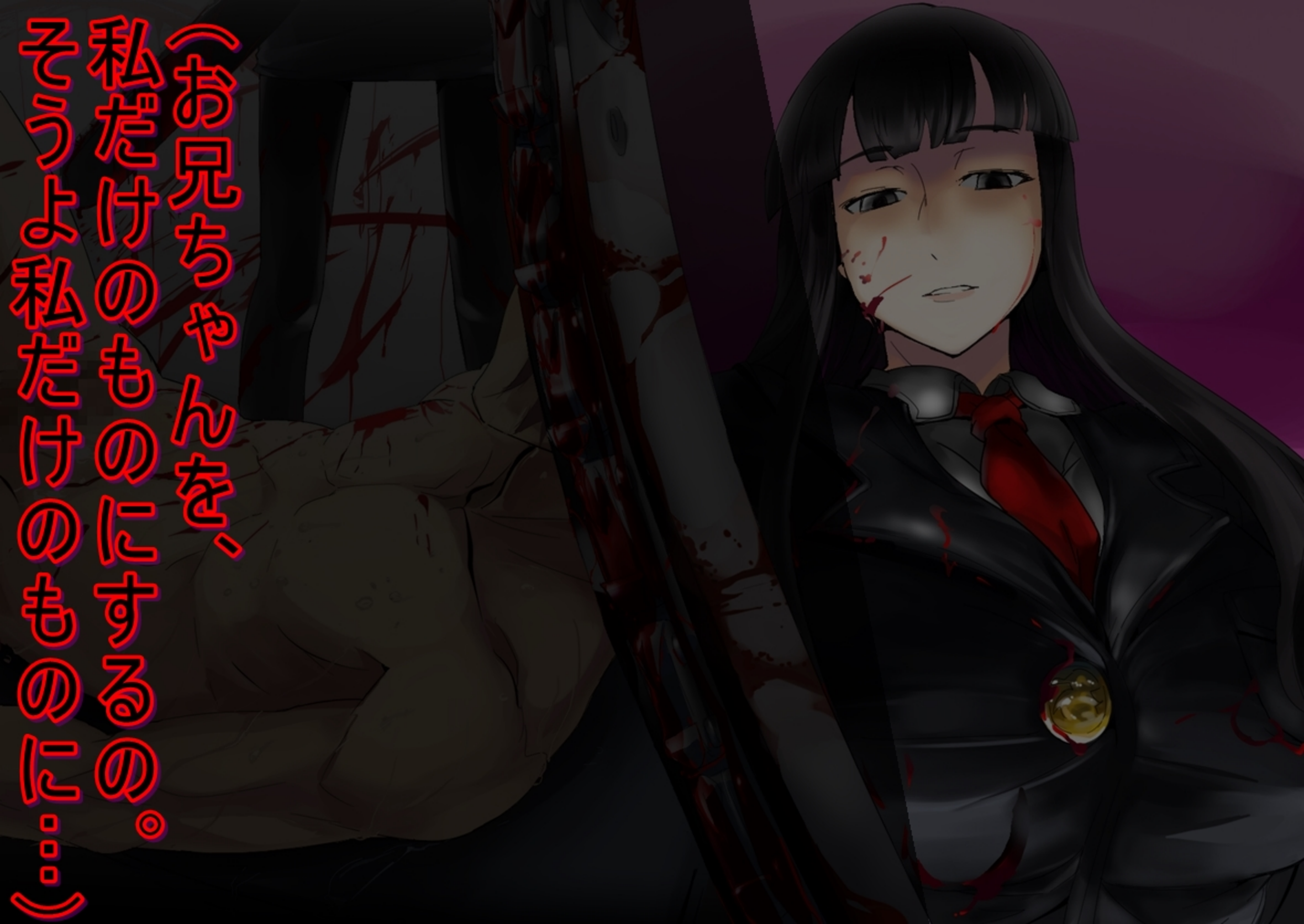


妹のノルネIIメルダース  
は、ペルンシユタイン軍  
(女性側)の  
特殊部隊の責任者。

「お兄ちゃんは

男であつてはならない…  
なぜなら誰よりも  
お兄ちゃんを愛している  
私がそう望んでいる  
のだから」

彼女には自分からヘルトを  
奪った軍を、男たちを  
激しく憎むようになった。



（お兄ちゃんを、  
私だけのものにするの。  
そうよ私だけのものに……）



迎えに来たのよ  
：そんな物を付けて…  
どうして、お兄ちゃんは  
どうして、お兄ちゃんは  
いつまでもそんなものを  
つけているのよ



お兄ちゃん  
の身体には、  
そんなものは  
必要ないわ

お兄ちゃん  
は  
そんな身体は  
捨てて  
女として  
生きるべきなの。



女になっただお兄ちゃんを  
私が立派な女性になれる  
ように導いてあげられる  
そう私が決めたから

これからお兄ちゃんは  
私にお尻をぶたれるのよ



うふふふ…安心して。

ぶつのは私の言うことを

聞かなかった時だけよ。

素直に聞いてくれたら

何もしなないわ。でもね…

今みたいに私の言うこと

に逆らうと…





さあ行きましょう。

その余計なものとは

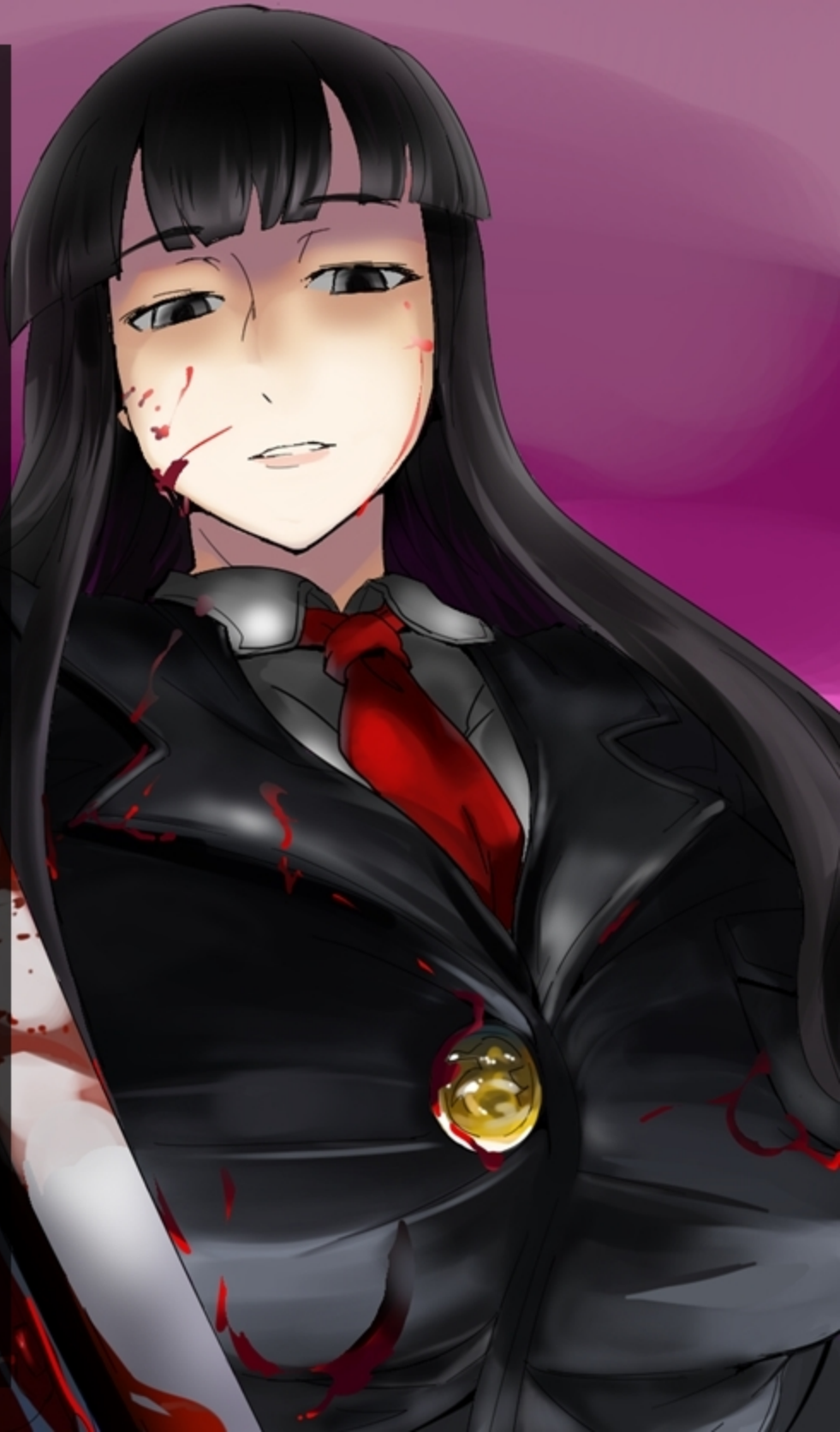
ここに置いていくのよ。

ノルネはそう言つて、  
チエーンソーを  
横に薙いだ。





お兄ちゃん  
は私のもの。  
私だけのもの。





たっつ

大丈夫。

何も心配することはないの。

お兄ちゃんのことを

誰よりも

愛している。ルネが

そばにいますから。

私がいいますから。